

令和6年度 木脇中学校「学校評価」まとめ

令和7年2月21日
国富町立木脇中学校

《アンケート方法》

- 保護者は「マチコミ」のアンケート機能、生徒と職員は「グーグルフォーム」を使用して実施
- 地域の方(学校運営協議会委員)は自由記述欄を設けて実施
- 各質問項目に対して、「4:そう思う」「3:どちらかと言えばそう思う」「2:あまり思わない」「1:思わない」の4段階で評価

《質問内容》

- ①皆さん(生徒)の学力を上げるための取組ができていると思いますか
- ②生徒が自分は誰かの役に立っていると思えるようなことができていると思いますか
- ③たくましい心と身体を育てることができていると思いますか
- ④安心・安全な学校づくりを行っていると思いますか
- ⑤地域との連携ができていると思いますか
- ⑥ふるさと木脇に誇りをもつ生徒を育てていると思いますか
- ⑦居心地の良い学校づくりを行っていると思いますか
- ⑧地域の信頼と期待に応える学校になっていると思いますか

《アンケート回収数と回収率》

- 保護者 128世帯中 104世帯が回答 81%(昨年度69%)
- 生徒 139名中 120名が回答 86%(昨年度83%)

《生徒・保護者・職員・学校運営協議会の評価結果 各項目の平均値》

①地域の信頼と期待に応える学校	3.3(昨年度3.3)
②ふるさと木脇に誇りをもつ生徒の育成	3.2(昨年度3.6)
③居心地のよい学校づくり	3.1
④「学力」の保障	2.9(昨年度3.1)
⑤「自己有用感」の育成	3.2(昨年度3.3)
⑥「たくましい心身」の育成	3.1
⑦「安心・安全」な学校づくり	3.3
⑧地域との連携・協働	3.3(昨年度3.3)

《アンケート結果に対する今後の対応策》

- 「ふるさと木脇に誇りをもつ生徒の育成」に関して評価が下がったことから、3年間の地域学習について、内容の精選と充実を図る。
- 全国的なテストや県一斉テストにおいて、県の平均値を上回っていることを生徒や保護者に伝え続けることで、単元テストに対する理解を得ていく。

令和6年度 木脇中学校 学校評価

「4：そう思う」「3：どちらかと言えばそう思う」「2：あまり思わない」「1：思わない」

項目	目標・ミッション	生徒	保護者	教員	地域	平均
1	【ミッション】 地域の信頼と期待に応える学校	3.4	2.8	3.9	3.0	3.3
2	・ふるさと木脇に誇りをもつ生徒の育成	3.0	2.9	4.0	3.2	3.2
3	・地域の信頼と期待に応える学校	2.8	2.9	4.2	2.5	3.1
4	目標1 「学力」の保障 ・キャリア教育の充実による「学びに向かう力」等の醸成 ・ICTの効果的な活用による「知識・技能」の確実な定着 ・「わかる」「できる」授業の実施 ・授業とリンクした家庭学習の習慣化 ・表現力等を培う総合学習の実施、読書活動の充実	2.8	2.4	3.8	2.5	2.9
5	目標2 「自己有用感」の育成 ・スクールワイドPBSの導入によるポジティブな行動支援 ・傾聴と承認による積極的な生徒指導 ・愛拶(あいさつ)運動の推進 ・夢や志を育むキャリア教育の実践	2.8	2.9	3.7	3.5	3.2
6	目標3 「たくましい心身」の育成 ・自他の命を大切にする指導・活動の充実 ・体力づくりの推進 ・体験的な活動の充実	2.9	2.8	3.8	3.0	3.1
7	目標4 「安心・安全」な学校づくり ・居心地のよい学校づくり ・安心して学べる学校づくり ・特別支援教育の推進	3.3	3.0	4.0	3.0	3.3
8	目標5 地域との連携・協働 ・地域に開かれた学校づくり ・3年間を見通した地域学習の充実 ・地域との連携・協働の推進	3.6	2.9	3.9	2.9	3.3

項目	○成果 ▲課題 ☆今後の対応	学校運営協議会委員の意見
1	☆学校運営協議会や学校行事等において地域の方々や保護者の声を聞き、来年度の教育課程に反映させていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・目指す学校運営に固執せず、数年での結果を求めず、長い目で継続していくことが必要。 ・コロナ後のためか意見交換会があまり無かった。
2	☆総合的な学習の時間における地域学習を3年間計画的に行っていくことで、ふるさと木脇に誇りをもつ生徒を育てていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業生の意見を集約し5年後、10年後を見据えることが必要。 ・PTA役員には伝わらなかった。 ・授業参観し、生徒の生き生きとした姿を見ることができた。
3	▲生徒と教員の評価のギャップが大きいことから、生徒目線で居心地のよさについて再考し、学校全体で何ができるか検討していく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と保護者は今、結果を求めるのでギャップは当然だと思う。 ・教員の評価が高い理由がよく分からない。
4	○タブレット端末を活用し、生徒一人一人の学びの成果を確認しながら授業を進めている。 ▲定期テストの方が学力が上がると思っている保護者もまだいることから、単元テストの目的や成果を生徒や保護者に伝え続けることで理解を得ていく必要がある。	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットは小学生から利用しているので、今後大きな財産となるのではないかな。 ・単元テストの成果はでているのか。 ・学校と保護者の溝が埋まっていない。単元テストは先走り過ぎ。 ・自分で学力を付ける考え方が今後大切であり、学校としては個人差をどうするかが課題。
5	○朝の挨拶運動に参加する生徒も多く、生徒同士がお互いを認め合う雰囲気ができている。 ☆生徒が前向きになるような肯定的な声かけや行動支援を今後も継続し、生徒の自己有用感が高まるよう努めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつは自分からすることで人間関係が構築されるので、無理矢理ではなく自然にできるとよい。 ・「自己有用感」という言葉自体が難しいと感じる。 ・あいさつは色々な場所で個人がしっかりとする必要がある。 ・全くあいさつをしない生徒がいる。
6	▲情報モラルに関するトラブルに巻き込まれることがないよう授業や学活などで危険性や安全に利用するためのルールを教えていく必要がある。 ☆SNSやゲームで睡眠時間が短い生徒も多いことから生徒や保護者への注意喚起を行っていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・何事も一生懸命取り組む姿勢が必要で、部活と勉学に目標をもってやって欲しいが教師に負担が掛かるため、地域の指導者と連携し働き方改革も含め取り組んでほしい。行政の連携が必要。 ・朝のランニングやグラウンドで絵の体操をもっとした方がよい。 ・子ども園との交流で幼児の発達を学び、おもちゃを作るなど体験的な活動への結びつきが上手だと感じた。
7	○登校や学習への不安を抱える生徒に対して、担任だけでなく学年団やスクールカウンセラー等と連携して個に応じた対応を行っている。 ☆生活アンケートや教育相談を生徒理解に活かし、一人一人を大切にしたい学校・学級経営に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・成果がでるのはもう少し先になると思う。継続して進めるのが良いと思う。 ・今後も継続して取り組んでほしい。
8	○生徒は地域の方とのつながりの大切さを感じ、国富町の魅力を知ると共に、地域の課題も自分事として捉えていることから、今後も地域の方々の協力を得ながらつながりを継続していく。	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の声を聞く会に参加したが、生徒が地域に対し素晴らしい思いをもっており、感心した。 ・千切り大根のPRや職業講話などよく取り組んでいる。 ・突然、大根からさつまいもに変更となったため、困惑した。